

学校シリーズ～都多小学校～



～さつまいもを植えています～



ふれあいコンサート



生け花体験



老人クラブとの交流会

定例会報告 戸原こども園及び(仮称)一宮北認定こども園 新築工事請負契約の締結ほか

2

6月議会の一般質問

3

9

平成29年度政務活動費収支報告

10

小学校区別の世帯数と人口

11

好評連載中 いいね👍しそうな人 穴栗山崎手作り甲冑の会

12



議会だよりはこちらから

第80回

宍粟市議会定例会

6月定例会は、5月29日から6月20日までの23日間の日程で開催され、教育長の任命等人事案件4件・条例の一部改正8件・戸原こども園新築工事請負契約の締結等契約案件3件・平成30年度一般会計予算の補正などの市長提出議案26件が審議され、全ての議案を可決しました。

宍粟市国民健康保険税条例の一部改正の専決処分

(専決第16号)の承認

【議案内容】

地方税法等の改正に伴い、兵庫県が国民健康保険に係る財政運営の責任主体となることに伴う改正、課税限度額を54万円から58万円に引き上げる改正及び低所得者に係る保険税軽減判定のための所得基準額の改正を行うもの。

【討論】

【反対討論】

軽減世帯拡大は必要であるが、限度額引き上げによる増収分を中間層部分に回して負担増を抑制するやり方では、結果的に全ての世帯の負担増につながってしまう。全ての加入者の保険料軽減のために一般会計からの繰り入れを行うべきである。

【賛成討論】

今回の改正は、地方税法等の改正に伴う改正であり、低所得者及び中間所得者に配慮した改正であるとともに、持続可能な医療保険制度を構築するための改正である。関係政令の公布が年度末であったため、急を要するため専決処分であり適切と判断し賛成。

議決結果

賛成多数で原案可決

消防ポンプ自動車購入契約の締結

件名

消防ポンプ自動車CD1型2台

契約相手方

姫路市白国2丁目13番1号

株式会社 藤井ポンプ製作所

契約金額

2千7百79万9千2百円

配備先

一宮支団第2分団東市場部

一宮支団第4分団三方町部

議決結果

全会一致で原案可決

戸原こども園新築工事請負契約の締結

請負契約の締結

契約相手方

宍粟市山崎町須賀沢1208番地

八幡建設株式会社

契約金額 3億7千5百84万円

(仮称)一宮北認定こども園新築工事請負契約の締結

契約相手方

宍粟市山崎町宇原345番地

上林建設株式会社

契約金額 3億3千8百4万円

議決結果

2議案とも全会一致で原案可決

■ 議決結果

○・・・賛成(採択) ×・・・反対(不採択)

議案	津田晃伸	宮元裕祐	山下由美	東豊俊	今井和夫	大久保陽一	田中孝幸	浅田雅昭	田中一郎	神吉正男	飯田吉則	大畑利明	林克治	榎橋美恵子	西本諭	実友勉(議長)	議決結果
宍粟市国民健康保険税条例の一部改正の専決処分(専決第16号)の承認について	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決 (賛14、反1)

■ 以下の議案は全会一致で可決しました

●教育長の任命等人事案件4件 ●税条例の一部改正等専決処分の承認3件 ●農業共済条例の全部改正 ●税条例の一部改正等条例改正8件 ●交通災害共済組合規約の変更 ●市有財産の処分 ●債権の放棄 ●平成29年度一般会計補正予算(第8号)の専決処分 ●平成30年度一般会計予算の補正 ●消防ポンプ自動車の購入契約 ●損害賠償に係る和解及び損害賠償の額の決定 ●市道路線の変更 ●戸原こども園新築工事請負契約の締結 ●(仮称)一宮北認定こども園新築工事請負契約の締結

問 教育日本一！子どもたちが
生き生き輝く宍粟市に

答 教職員がはたらきやすい
教育環境づくりにとりくむ



大久保 陽一

問 子どもたちが元気いっぱい学校生活を送っている姿が、保護者の希望であり地域の喜びだ。更に子どもたちのあふれる笑顔が、市が進めている定住促進にもつながる。先生の笑顔が子どもたちの笑顔につながる。長時間労働で疲れた先生の現状は、子どもたちの教育にも宍粟市の将来にもマイナスだ。子どもたちのために、教職員の働きやすさ改革が必要である。

市長 教職員がはたらきやすい教育環境づくりにとりくむ。

教育長 教職員の時間外勤務を再調査し、勤務時間適正化にとりくむ。

問 宍粟市近郊に住んでいる宍粟市出身の人を、宍粟市住民の「準家族」として、市の主催事業などにも招待してはどうか。

市長 市外の方々に宍粟市に足を運んで頂けるような案内、招待の方法を工夫する。

問 「ものづくりロケーションアカデミー」「国際交流協会のお茶ッ

トルーム」など民間の英知も導入し、教育日本一の施策を。

教育長 民間から学ぶことによって、新たなアイデアを生む力を身に着ける機会となっている。子どもたちの参加を呼び掛けたい。

問 草刈り・ゴミ拾いボランティアをして下さっている方々の思いでもある「宍粟市空き缶等のポイ捨ての防止に関する条例」の一層の市民周知をされたい。

市長 市民周知に関して、まだまだ充分とは言えない状況である。啓発活動を繰り返し行っていく。

問 市民の居場所づくりとして、子どもたちが、「また行きたい」と思える遊具があり、親世代も健康増進に活かせる公園整備をされたい。

市長 「城の子公園」や「かみかわ緑地公園」など多くの市民が楽しく集える公園整備が必要であると考えている。子育て環境の充実にも公園整備を推進していく。

問 千種拠点づくりの図面
町民に分かりやすく提示を

答 見える形を意識して行う



今井 和夫

問 2015年からの3年間でも市外から54世帯が移住してきている。それ以前も含めればもっとおられるだろう。お互いの情報交換や行政への要望、また、今後の移住希望者の相談の場として、移住者の集まる会を作ればどうか。

市長 「集いの会」をつくり、継続的に行っていききたい。

問 千種拠点づくり検討委員会でこの6月に一応の結論が出された。9月頃には素案の図面と絵ができる。それをできる限り、町民すべてに示して、みんなから意見を聞いてもらいたい。時間がかかり効率が悪いかもしれないが、それがあとに生きてくる。民主主義は効率が悪い、しかし、その過程が大切。

まず、千種町全戸に図面・わかりやすい絵を配布してもらいたい。

企画総務部長 今まで同様、市の広報にはさんで千種町内全戸に配布していた形で、できるだけ見える形を意識して行いたい。

問 また、それとは別に消防団等の若い方々にも同じものを配布してもらいたい。家に配つても見ない若者も多いので。そうやって若者の意見も直接聞くという姿勢を見せてもらいたい。

折角のチャンスなので、「みんなで考えて作った」という体験を全町民が持てるようなプロセスをお願いしたい。

企画総務部長 いろんな方々に意見をいただく、議論が深まる工夫をしていきたい。

問 「土砂災害特別警戒区域」に
市の支援制度を早急に！

答 市全体の指定が完了する
までには方向を示す



田中 孝幸

問 「土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）」に指定された場合の「レッドゾーンから移転する場合の費用支援」「レッドゾーンの建築物を改修する場合の費用支援」「その他の支援措置」等の支援制度を早急に制定しないと、指定を受けた市民は、不安だけが残ри、どうすれば良いのか、怒りさえ感じる。速やかに、支援制度を制定すべきと考えるが、如何か。

建設部長 H32年度に市全体のレッドゾーン指定が完了する。それまでには、何らかの方向を出していく。

問 レッドゾーンを指定する時は、市民目線での納得のいく説明と対処方法を必ず示して下さい。又、県の「急傾斜地崩壊対策事業」の事業内容・採択要件等を伺う。

建設部長 事業内容は、降雨や地震などに伴って発生するがけ崩れ

災害に対し、急傾斜地崩壊防止施設等を設置することによって人命を守る事業です。採択要件は、急傾斜地崩壊危険箇所のうち、崩壊による被害を受ける可能性のある人家が5戸以上で斜面の傾斜が水平面に対して30度以上かつ高さが5m以上の斜面で人家に被害を及ぼす可能性のある箇所が、対象となります。

問 その他の「急傾斜地崩壊対策に関する事業」はあるのか伺う。

建設部長 土木関係は無いが、農林関係の治山事業がある。保全対象となる人家が5戸以上の場合、県主体で事業を行う。5戸未満の場合でも市主体で事業を行うが、地元負担が必
要となる。



問 病児・病後児保育への
取り組み状況は

答 開設場所・実施主体等の
協議を進めている



飯田 吉則

問 病児・病後児保育について現状の進捗状況を伺いたい。

市長 平成31年度開設を目指して、庁内関係部局の横断的な体制により、調査研究を行ってきた。開設場所・実施主体等、具体的な計画がまとまり次第、年度内の補正対応等も視野に入れ準備を進めて行きたい。

問 子育て世代から要望がある可燃ごみの週2回収集について、その必要性についての状況把握等を行った上で実証計画を立てているのか。何を持って検証・判断するのか。デメリットに挙げている、収集経費の増、地元管理の負担増への対応は。紙おむつ等については、子育て世帯を含め、在宅介護をされている場合も苦慮されている。収集回数を増やす以外に、保管ボックス等の補助対策についての研究も並行して進めていただきたい。

市民生活部長 週2回収集以外についても考えたが、にしはりまクリンセンターへの受入れが困難というところで、週2回収集の実証を行うこととした。ごみの減量化とは、相反することになるが更なる減量化に協力頂き、経費の削減にも努めることを考えて行きたい。

問 「宍粟市版若者会議」ということを言われているが、その位置付けをどのように考えているのか。単に、若者の意見を聴くというのではなく、先進事例の様に事業提案に対して、予算を付けて行くようなことが出来るような考えはないのか。

市長 若者に、自分たちが街を創って行くという意識を持っていたく事は重要なことで、そこへは段階を踏んで行かなければならないと考える。将来に向け方向を間違えないように進めて行きたい。

問 観光振興のために
情報連絡会の設置を

答 情報共有のための
取り組みを考える



神吉 正男

問 ゴールデンウィーク中に行われた山崎地区 大歳神社の藤まつりでは、藤の開花時期がずれてしまい、見ごろを過ぎてしまっていた事は残念でした。しかし、多くのお客様で通りを埋め尽くしていました。市長の認識を伺う。

市長 千年藤の生育と保全は非常に繊細なもので、一時期非常に厳しい状況であったが、保存会の方々の手入れによって今日があると思っております。大変ありがたい事です。

藤まつりは市内の各種団体と地域が一体となって、実行委員会形式で運営をして頂いている。商店街や「よいまちプロジェクト」、女性グループ「夢マルシェ」等の活力により多くの方にお越しいただいたと分析しています。

交流人口の拡大により穴栗市の活力が更に増大するように、今後進めていきます。

問 交流人口の拡大は、平日の来訪者を増やす事も大切で、個人旅行者の関心ことは団体旅行者のそれとは違い、地域との結びつきである。まだ知られていない見どころ等への移動手段や所要時間を季

節ごとに伝える事は出来ないものか。また郷土愛にあふれる活動をされている関係者が集まり、現場のニーズに根ざした観光情報を共有する連絡会を設置してはどうか。

産業部長 旬の情報を上手く整理し、集客・宿泊施設に行き渡るように努める。また（仮称）観光情報連絡会を定期的に開催し、穴栗のイベントや観光のあらゆる情報等を共有する取組みを考える。

問 公共交通の運行方法の最適化とネットワーク化を考える際に、乗り継ぎがスムーズにできるようダイヤを設定し利便性を向上させ、市外からの観光者にも、シーたんバスで市内を巡ってもらえる環境づくりを考えてはどうか。

まちづくり推進部長 姫路駅・新宮駅・神戸三宮の広域路線や市外連絡路線との連携により、観光人口の拡大を図っている。

シーたんバスの再編にあたっては、市外からの観光者の移動手段も主な目的としている。



三宮行きハイウェイバス

問 市内でモノや資金等が
循環する経済の推進を

答 起業や事業所支援策などで
推進していきます



宮元 裕祐

問 市の発展にむけた取組みには、市内の雇用の創出や地域経済の活性化につなげていくことが必要と考えます。市内でモノや資金等が循環する地域経済の推進策には、市民のところに訴える施策も必要と考えるが、市の取組みを伺います。

産業部長 起業や事業所支援策で推進していきます。また、消費のあり方を市民が考えることが重要ですので、広報などで啓発活動に努めます。

問 Aコープ閉店や商店の減少により市民生活に不安や不便が広がっています。買い物弱者対策が必要と考えるが、市長の考えを伺う。

市長 買い物弱者対策は市としての役割が必要である。検討します。

産業部長 食料品店などが運行している移動購買車などは、その購買車の購入補助金などで支援して

いきます。

問 これからの行財政改革には、市職員からのさらなる新規事業や事業改善の提案が必要だと思うが、市の考えを伺う。

企画総務部長 市職員が目標意識を持ち、個人だけでなくチームとして行財政改革に取り組んでいきます。

問 Wi-Fiは、防災や観光の整備には必要だと考えるが、今後の整備計画を伺う。

企画総務部長 市庁舎や防災拠点・避難所から整備を進め、人が集まる観光施設にも順次整備していきます。



問 各分野と連携し、みんなの公共交通に

答 路線「廃止」ではなく、利用促進を図る



大畑 利明

問 大型バス路線の維持と交通空白地域を解消するために事業化した公共交通再編について、バス運行事業の実績とその評価について問う。

市長 交通空白地の解消、低額料金制の導入などが高く評価された。市民からは「便利になった」「友人と市内各地を巡れる」や「便数を増やしてほしい」「今のダイヤでは使えない」等様々な評価がある。市民の移動手段として、公共交通の役割が増していると捉えている。さらに役割を高めていく。

問 各路線の評価は、1便当たり利用者が概ね0.7人以下は、「路線の統合や必要性自体を検討する」との考え方だが、その指標のみでは不公平な評価になる。各路線の条件や環境が異なる中、沿線の人口密度等に左右されない利用率や公費助成額の割合、収支率など、複数の指標によって適切に評価すべきではないか。

副市長 沿線人口や対象者の把握が難しいが、路線評価の検討に加えていく。ただ、今回の見直しは、廃止を前提にするものではない。いかにして路線を守るか移動手段を確保するか沿線地域と協議するものである。

問 まちづくりに貢献する公共交通として、観光客の誘導・児童の通学利用、福祉車両の導入、環境負荷軽減など、あらゆる分野と連携しながら、質の向上や利用促進を図るべきでは。

市長 交流人口を増やすためにも祝日運行は大事であり見直したい。

まちづくり推進部長 バス利用が医療・福祉・教育など様々な分野で効果を発揮することを市民に伝えていきたい。また、事業所等にノーマイカーデ이의働きかけや市内・市外の方々の利用促進に向けた取り組みを行う。

教育部長 児童の通学利用、スクールバス活用など検討していく。

問 「耳鼻咽喉」診療の確保は多くの市民が遠くの病院への通院を余儀なくされ、大変苦勞されている。

市長 市外の医師が、宍粟市での開業（耳鼻咽喉）にむけて検討されている。順調に進めば、来年の今頃に、遅くとも8月頃には開業できる見通しになっている。今後は、開業に向けた市の支援策など、条件整備を図りたい。



公共交通バス

問 介護保険の負担軽減を

答 他市町の状況を研究し判断したい



山下 由美

問 介護保険料が今年度引き上げられ、（基準月額）5,900円が6,700円になった。全国平均は5,869円であり、兵庫県下41市町中でも宍粟市は3番目に高い保険料となった。近隣の市町の状況は、引き上げているところもあるが、相生市や赤穂市、太子町、上郡町は引き上げを行わず据え置き、市川町では引き下げが行われている。介護保険開始時の山崎町の保険料は2,600円であったので、現在と比較すると2.5倍以上の引き上げが行われ負担感が増している。宍粟市の現状を見ると、平成28年度末の介護保険料の滞納額は、3,961万8,533円、滞納者は実数で356名となっており、平成30年3月30日付で、207人2,551万9,280円

の不納欠損処理を行っている。平成29年度からは滞納者に対しサードビス利用時の給付制限も行っている。このような現状がある中、対策を施すこともなく介護保険料を引き上げている事には問題がある。また、介護保険料は何とか払っても、介護サードビス利用時にはそのサードビス利用料の1割ないし2割の料金がある。今年8月からは一定所得以上の人は3割の利用料負担となる。その人に必要な介護サードビスを利用できない人たちがおられる。他市町で実施しているような介護保険の軽減策を宍粟市でも実施するべきでは。

市長 他市町の状況は研究して行きたい。その上で宍粟市においても妥当性があるのかも含めて判断したい。

問 ヘルプマークの周知方法は

答 しそつチャネル等で周知したい



梶橋美恵子

問 ヘルプマークは援助や配慮を必要とされる方が所持・携帯していることは勿論の事、周囲でそのマークを見た人が理解していないと意味を持たないため市民への周知はどの様に。

健康福祉部長 県において導入が決定され、本市でもこの4月より希望される方へ交付を開始している。市民への制度の周知が必要である事から、市のホームページや広報の5月号での掲載を行った所です。今後はしそつチャネルを始め様々な機会を活用してこの制度の周知を図っていききたい。

問 災害時に備えて、市役所ロビーに「災害対策型カップ自販機」の設置を検討すべきと提案したい。又緊急避難に備えて今使っている車いすに簡単に装着出来る「®じりりき」は、避難時に抜群の機動力を発揮します。安心安全で市民を守るためご検討を。

市長 本市においては本庁舎・波賀市民局そして防災センターに上水道の貯蓄タンクや非常用自家発電の設備をしています。お湯の供給も総合応援協定を結んでいることから現在の所はいかがかなと思っている。「®じりりき」は被害時において有効な物と思われる事から今後、公共施設における導入整備を検討したい。

市長 本市においては本庁舎・波賀市民局そして防災センターに上水道の貯蓄タンクや非常用自家発電の設備をしています。お湯の供給も総合応援協定を結んでいることから現在の所はいかがかなと思っている。「®じりりき」は被害時において有効な物と思われる事から今後、公共施設における導入整備を検討したい。

問 閉校となり地域も寂しくなっています。体育館に「ボルダリング」を設置して頂き、地域あげて「健康スポーツまつり」が開催できると活気がみなぎるのでは。

市長 学校跡地の活用はなかなか難しいのが現状、しかし活性化の一つとして協議もしながら情報として発信はしていきたい。



ヘルプマーク

問 エアコン設置で学習環境の改善を

答 計画的に推進する



西本 諭

問 AED設置から14年経過した状況で、命を守る重要な機器として、設置場所・使用方法等を含めて総点検する必要があると考えるが。

市長 AEDの設置・活用については充分認識をしており、今後も普及啓発に努めていく。

問 AEDについては24時間365日いつでも使える状況が必要である。市は、設置場所を積極的に市民に公表する必要がある。

そこで、スマホのGPS機能等を利用して、現場から一番近いAEDを検索できるようにできないか。また、24時間営業のコンビニや派出所等に設置を含めて改善すべきである。

まちづくり推進部長 市民の安全が保たれるよう総点検していく。

問 全国的には学校現場でも毎年児童生徒の心停止の事故が発生しており平成23年に起こった事故については、2週間前に救急講習を受けたにも関わらず、救急車到着

迄AEDを含めて、救急処置が行われなかった為、重大事故となった事例がある。当市の学校現場における救命教育の現状を伺う。

教育長 消防署の協力でAED講習を全教職員が毎年受講し、各現場で機会あることに講習会を行っている。また、子ども達は発達の段階に応じて命を守り抜くための、主体的な行動が出来る様取り組んでいる。

問 小中学校における、夏場の学習環境については、現在扇風機による対応であるが、今後は各教室にエアコンの設置で、より良い学習環境が必要と考えるが。

教育長 新設中学校についてはエアコン設置ができています。今後は学習環境に差異がでないように順次計画的に推進していく。



AED

問 第三セクターの経営改善で地域おこし企業人を活用して民間の知恵と活力を期待できないか

答 積極的に民間企業にアプローチをかけた行く



津田 晃伸

問 森林大学校の卒業生をいかに定住させるか。卒業生の進路について宍粟市の森林業への就職、定住はどう考えているのか。少子化が進む中、市として学生の確保に向けての施策はあるのか。

市長 第一期卒業見込み15名に市でも「緑の雇用制度」という支援策を創設している。学生の生活環境をサポートする取り組みでさらに生徒数を増やしていきたい。

問 地域おこし企業人について、兵庫県は全国的にも進んでいて洲本市、朝来市、豊岡市では既に地域おこし企業人が活躍。観光産業で大きな成果が出ている。市長に市外の企業への人脈づくりに注力してトップセールスをお願いしたい。

市長 募集しているが、応募がない状況。こちらから企業に足を運んで力ヌー大会や森林セラピー等の宍粟市ならではの取り組みをアピールしていく必要がある。何を

してもらうかを先に決め、ブレない形で企業に積極的にアプローチしたい。

問 第三セクターについて、赤字でも地域の雇用に必要な価値があると思っています。第三セクターの経営改善に地域おこし企業人を活用してはどうか。具体的にはアウトドアブランドを展開する企業等にアプローチをかけて行くべきだと考えます。

市長 市には第三セクターが3社あり観光振興の拠点としての役割を担っている。しかし経営状態は非常に厳しく、副市長が社長をしている現在がベストではなく、現場に常駐ができる人材の登用が望ましい。だが経営の安定化は課題なので、地域おこし企業人がふさわしいのか今後検討していきたい。提案のあった企業にもアプローチをかける。経営的にはプラスマイナスゼロに持っていきたい。

問 保険・医療・福祉が連携した安心なまちづくり施策

答 地域包括ケアの拡充を図る



田中 一郎

問 介護保険・医療保険制度が改正されてきた。新たな介護保険制度「介護予防、日常生活支援総合事業、地域医療」のもとで介護医療サービスが提供されている。当市においては、平成30年度に、第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画・障害者福祉計画がスタートした。次なる宍粟の考え方、取り組みについて伺う。

市長 宍粟市地域包括ケアシステムが目指す2025年の将来像が安心してつながりを持ちながら生活できる。生活のしづらさが生じたとき、家族や近隣、ボランティアなどの支援を受けることができる。切れ目のない医療・介護サービスを個々の状態に応じて受けられることができる。個人の尊厳や財産を守ることが保障される在宅での看取りができる。この5点を基本とする新たな施策の展開を進める。

問 保険者機能の強化、地域支援事業など地域の実情に応じたサービスの提供について伺います。

健康福祉部長 法改正により自立支援や重度化防止の取り組みが制度

化されたことから、課題の分析や達成度の実績評価をし地域の実情に応じた取り組みを進める。多職種との連携により地域づくりの手段と捉え積極的に進める。

問 慢性期医療や介護ニーズの対応として「介護医療院」の制度が創設されたが、どのように対応するのか市の見解を伺います。

健康福祉部長 市内には介護療養型医療施設はないが、この制度は、介護療養型医療施設や医療療養病床からの転換となるため、現在は創設の想定はしていない。

問 一宮北部の活性化を図るため「御形の里づくり事業」が展開されていますが、日本一の風景街道づくり事業と合わせて広範囲に渡る継続的な整備計画を求めます。

一宮市民局長 平成29年度に整備した複合遊具、ランドゴルフコースについては、既にたくさんの方の利用で賑わっている。一宮北部の未来については、一宮北部まちづくり委員会において、地域資源の発掘と活用について協議され、市として地域の皆さんの意見が形となって現れるよう努力する。

問 交流人口を増やす
対策について

答 地域資源を
最大限活用して取り組む



浅田 雅昭

問 交流人口を拡大し、地域が活性化した賑わいのあるまちづくりを目指すとして「ふるさと実業観光条例」を制定し、様々な事業が実施されているが、「観光地としての認知度が低い」「観光地としてのイメージが形成されていない」という調査結果が出ています。

観光地としての認知度を高め、イメージアップを図るための取り組みを提案します。市長の考えを伺います。

答 実業市ならではの食べ物の開発を

再訪してもらうきっかけの一つとして「食：ご当地グルメ」があると思う。豊かな風景と「食」が組み合わせれば、また行ってみようというきっかけになると思う。

観光振興には、城下町として栄えた山崎中心市街地の活性化が必要不可欠

地域創生に向けた取組として「日本一の風景街道の創造」に取り組んでいる。地域の歴史や歴史あるまち並みも風景です。

- ・趣あるまち並みの保存
- ・城下町として栄えた歴史資料や酒造りに関する資料を一つにした施設整備を

市長 「食」は大きなキーワードである。今後とも、観光振興の戦略の一つとして取り組む。また、歴史資源を保存活用して、活力あるまちづくりを進める。

産業部長 しそう森林王国観光協会を中心に「食」の開発を進めている。

山崎中心市街地活性化委員会の取り組みを支援し、連携してまち並み保存を進める。

施設整備については、更新も含め、場所や歴史資料の保存方法を検討する。

議会だより
広報モニター
頑張っていた
います



2018年5月31日のモニター会議にて

昨年度から始まりました議会だより広報モニター制度。モニターになっていただいた10名の委員の方には、毎回議会だよりを送らせていただき、感想・意見をお願いしています。

昨年度は2回、今年度はすでに1回、お集まりいただき、意見をいただきました。

- 行政用語が多く分かりにくい、もっと分かりやすい言葉で。
- 表紙にインパクトがない。もっと興味をそそるような書き方に。
- 議会だよりは見たことがない、もっと市民が興味を持つように工夫すべき。
- テーマを決めて特集をしてはどうか。

等々、様々なご意見をいただきました。

これらの意見を受けて、広報広聴委員会ではこの1年、少しずつですが改良をしてまいりました。結果、前回のモニター会議では、以前に比べてかなり読みやすくなったとの意見もいただきました。

今後もさらに、よりわかり易い内容にと頑張っていきたいと思います。モニターの皆さま、お世話になりますどうぞよろしくお願いいたします。

また、市民の皆さまからも「こんなテーマが欲しい」などの意見がありましたらどしどしお寄せください。お待ちしております。

平成29年度 政務活動費収支報告一覧

(単位:円)

会派等の名称	人数	収入	人数変更等に伴う増減	交付確定額	支出	戻入額	執行率	収入内訳	支出内訳				
								政務活動費	調査研究費	研修費	広報費	資料作成費	資料購入費
創政会	6 (8)	1,200,000	-270,000	930,000	61,360	868,640	6.60%	930,000	0	61,360	0	0	0
宍志の会	4 (0)	0	540,000	540,000	123,476	416,524	22.87%	540,000	97,960	0	0	28	25,488
公明市民の会	2	360,000	0	360,000	67,605	292,395	18.78%	360,000	0	42,156	0	0	25,449
政策研究グループ グローバルしろう	2	300,000	0	300,000	270,945	29,055	90.32%	300,000	61,020	53,916	149,040	57	6,912
山下 由実	1	交付申請なし						交付申請なし					
東 豊俊	1 (0)	交付申請なし						交付申請なし					
今井 和夫	0 (1)	150,000	-135,000	15,000	0	15,000	0.00%	15,000	0	0	0	0	0
津田 晃伸	0 (1)	150,000	-135,000	15,000	0	15,000	0.00%	15,000	0	0	0	0	0
宮元 裕祐	0 (1)	150,000	-135,000	15,000	0	15,000	0.00%	15,000	0	0	0	0	0
合 計	16	2,310,000	-135,000	2,175,000	523,386	1,651,614	24.06%	2,175,000	158,980	157,432	149,040	85	57,849

人数欄の()の数字は、平成29年度異動前の人数です。

- ・創政会は、6月末に2名の脱退があり、8名から6名になりました。
- ・宍志の会は、7月に会派を結成しました。
- 公明市民の会は、4月から3月分までのものです。その他は改選後の6月以降の分となります。

宍粟市の政務活動費は、議員の調査研究その他の活動に資するため必要な経費の一部として一人月額15,000円を交付されていますが、透明性を確保するため収支報告書の提出に際しては、領収書等の証拠書類の提出が義務付けられています。なお、領収書の写しについては、市のHPで公表しています。また、各会派が行った先進事例調査の報告書もHPで公表しています。

政務活動費・調査研究費の一例

視 察 先	調 査 目 的
鳥 取 県 日 野 郡 日 南 町	道の駅を核としたコミュニティ形成
	森林・林業の現状と課題及び林業振興の取り組み
	営農組合の具体的な活動内容と今後の展望について
広島県東広島市河内町小田	共和の郷小田の設立経緯と今後の展望
広島県世羅郡世羅町	集落営農・営農組織の法人化について
広島県三次市上田町	農村における雇用創出

政務活動費支出科目

- 【調査研究費】
市の事務、地方行財政等に関する調査研究に関する経費
 - 【研修費】
研究会・研修会の開催又は参加に要する経費
 - 【広報費】
会派等が行う活動報告及び市政報告を行うための経費
但し、所属政党や関係団体、個人のものを除く
 - 【広聴費】
市民からの要望や意見の聴取、市民相談等に要する経費
 - 【資料作成費】
活動に必要な資料の作成に要する経費
 - 【資料購入費】
活動に必要な図書・資料等の購入に要する経費
- 【人件費】【事務所費】は、宍粟市議会では支出しないことにしています。

平成30年度 9月議会 定例会日程 (予定)

- 9月 3日(月) 本会議(議案上程)
- 9月 6日(木) 常任委員会付託案件審査
- 9月 7日(金) 常任委員会付託案件審査
- 9月11日(火) 一般質問
- 9月12日(水) 一般質問
- 9月13日(木) 一般質問・決算質疑ほか
- 9月18日(火) 決算委員会
- 9月19日(水) 決算委員会
- 9月20日(木) 決算委員会
- 9月21日(金) 決算委員会
- 10月 2日(火) 予算決算常任委員会
- 10月 5日(金) 本会議(最終日)

お知らせします！ 小学校区別の世帯数と人口！！

宍粟市の未来を描くうえで、5年前と現在の世帯数と人口を比較してみました。
世帯数については、一宮・波賀・千種地区は、131世帯の減少(2.3%)ですが、山崎地区は、199世帯の増加(+2.2%)となっております。市合計は、68世帯の増加(+0.4%)です。
人口については、一宮・波賀・千種地区は、2,092人減少(12.4%)し、山崎地区も、1,346人減少(5.3%)してます。市合計は、3,438人減少(8.2%)です。
それぞれの地域の未来を描くうえでも、様々な課題があると思います。
市民の皆さんと共に考えていきます。ご意見・ご要望をお待ちしております。

平成30年4月1日現在

校 区		山崎小	城下小	戸原小	河東小	神野小	伊水小	都多小	山崎西小	山崎地区計	一宮北小	はりま一宮小	一宮地区計	波賀小地区計	千種小地区計	合計
世帯数	平成30年	2,790	1,687	454	1,248	926	540	395	1,111	9,151	1,169	1,725	2,894	1,427	1,141	14,613
	平成25年	2,739	1,600	468	1,193	897	547	398	1,110	8,952	1,227	1,723	2,950	1,467	1,176	14,545
人口	平成30年	6,712	4,410	1,212	3,501	2,553	1,452	923	2,844	23,607	3,224	4,937	8,161	3,634	2,914	38,316
	平成25年	7,058	4,459	1,348	3,585	2,733	1,592	1,026	3,152	24,953	3,778	5,487	9,265	4,178	3,358	41,754
0 ～ 19才	平成30年	1,299	849	204	773	470	248	115	403	4,361	453	771	1,224	502	346	6,433
	平成25年	1,432	836	250	782	537	301	152	498	4,788	603	937	1,540	710	490	7,528
20 ～ 39才	平成30年	1,226	1,009	187	725	450	249	137	453	4,436	534	819	1,353	523	432	6,744
	平成25年	1,530	1,143	268	823	582	326	171	619	5,462	725	1,040	1,765	724	561	8,512
40 ～ 59才	平成30年	1,751	1,061	306	888	637	345	181	684	5,853	712	1,269	1,981	909	668	9,411
	平成25年	1,712	1,079	302	887	656	395	215	758	6,004	884	1,428	2,312	1,009	861	10,186
60 ～ 79才	平成30年	1,771	1,134	379	840	738	446	328	955	6,591	1,030	1,497	2,527	1,140	951	11,209
	平成25年	1,785	1,040	401	852	700	410	345	932	6,465	1,043	1,543	2,586	1,229	949	11,229
80才	平成30年	665	357	136	275	258	164	162	349	2,366	495	581	1,076	560	517	4,519
	平成25年	599	361	127	241	258	160	143	345	2,234	523	539	1,062	506	497	4,299

7月豪雨により被災された皆さんに、謹んでお見舞い申し上げます。

宍粟市議会議員 実友 勉

7月5日から降り続く雨は、時間を追うごとに激しさを増し、7日未明には市内で、時間雨量58ミリにも達しました。その後、空がようやく白み始めると、被災状況が次々と入り、甚大な被害が明らかになりました。河川の氾濫、山腹の崩壊情報など。今回の豪雨により、残念ながらお亡くなりになられた方があり、痛恨の極みであります。お亡くなりになられた方に心より哀悼の意を表します。

また、家屋の流出や倒壊等、被災されました皆様方に衷心よりお見舞いを申し上げます。議会といたしましては、早期の復旧、復興を目指し、市のこれから災害対策事業を、一杯支える覚悟でございます。

災害は何時来るかわかりません。今回の豪雨災害の経験を活かし、万が一の災害も見据え、今後の災害対策を考えていかねばと考えます。



このコーナーでは、市内で地域づくりに頑張っておられる団体や個人を広報広聴常任委員会のメンバーが取材し、皆さんにお知らせします。

山崎本多藩記念館 「六粟山崎手作り甲冑の会」

手作り甲冑を通じて山崎の歴史を知ってもらい、甲冑を活用してまちおこし活動をされている「しそ元気げんき大作戦」事業の取組み3年目の団体です。

代表の小林由佳子さんにお話を伺いました。

『山崎本多藩1万石が1679年から190年間治めていた「城下町山崎」の歴史を伝えるにはどうしたらよいかを考えていた時「手作り甲冑」に注目し、上郡の「赤松手づくり鎧・かぶとの会」から指導を受けました。現在、山崎城本丸跡地にある民俗資料館と本多記念館の工房で、手作り甲冑教室を開催し、生徒の皆さんが鎧兜（よろいかぶと）を作っています。』

完成した実物を拝見しましたが、どれも細部の紐にまでこだわりのある作りで、艶消し塗装された容姿は重厚で風格があり、とても紙から作られたとは思えない素晴らしい出来です。

これまでに甲冑を作った生徒さんたちは、姫路お城まつり・上郡白旗城まつり・龍野さくら祭や千葉県大多喜城の武者行列イベントなどに参列されました。六粟市内では長水城まつり、ちくさクリンソウまつり、一宮ふるさとまつり、



もみじまつり、藤まつりなどで甲冑の着用体験を開催されました。

今年の11月4日には、本多記念館・立ち葵の会・六粟山崎手作り甲冑の会を中心に実行委員会を作り、第2回「山崎本多まつり」を企画されています。甲冑の着用体験や武者行列、食と雑貨市、六粟和太鼓アーツ倶楽部による演奏などで、伝統的要素を取り入れ、侍の世にこだわり、江戸時代にタイムスリップしたような、本多藩ゆかりの歴史を体感できる演出を企画されています。

また、本多まつり関連イベントとして、山崎本多藩記念館の代表理事の三木谷研一さんが副会長であるヴィッセル神戸の協力で「ヴィッセルサッカースクール」を、10月に開催予定です。サッカー少年たちには、ぜひ参加してもらいたいです。

今年度より「六粟市山崎文化協会」に加盟され、江戸後期以降の六粟の歴史と文化を継承していく事にも注力され、地域を活性化させる小林さんたちの活動を、今後も応援していきます。

（取材：神吉 正男）

編集後記

このたびの7月豪雨の被害に遭われた方々には心よりお悔やみとお見舞い申し上げます。

今回、西日本を襲った記録的豪雨は甚大な被害をもたらし、六粟市でも避難生活を余儀なくされた方々の支援が急務になっています。

今回のような異常気象の自然災害により、我々の静かな日常が、突如として一変させられることを目の当たりにし、自然災害がある意味共存して行かなくてはならない身近な存在であると改めて思い知らされました。行政は早急にハザードマップを再度周知させ、市民の皆さま一人一人が、予測される災害を想定し有事に備えることがいかに重要かと再認識しました。

また林業の衰退による斜面の荒廃が土砂災害をさらに起こりやすくしている一因とも言われています。今一度、皆さまと一緒に林業の重要性を見つめ直し、林業再興に注目したいと思っています。

広報広聴常任委員会

委員 津田 晃伸